

〔(公) 病虫害防除試験 (農林水産部食料安全課所管)〕
世界自然遺産登録地に適した侵入病虫害等管理技術の検討
～固有種等の樹木に発生した蛾類～

大林隆司
(小笠原農セ)

【要 約】小笠原諸島固有種や広域分布種の樹木に発生した蛾類を調査した。固有種のオガサワラグワからはヤガ科とシヤクガ科，固有種のヒメツバキからはキバガ科，広域分布種のモモタマナからはシヤクガ科が記録された。一部の種は小笠原諸島固有種だった。

【目 的】

小笠原諸島固有種や広域分布種の樹木は，島内における緑化や植生回復事業への利用が期待されている。これらを加害する病虫害についての知見は充分とはいえない。これらに発生した蛾類の同定を行い，小笠原の固有種等樹木の病虫害対策に役立てる。

【方 法】

固有種等の樹木で発生していた蛾類幼虫を採集・飼育後に同定し，また加害状況・発生状況を調査した。

【成果の概要】

1. オガサワラグワ (クワ科，固有種) のハスモンヨトウ (ヤガ科) : 2015 年 1 月に葉に発生した (図 1)。本種は汎世界種である。本種の食性はかなり広いが (国内記録は 33 科 54 種)，国内ではクワ科からの記録はイチジク程度しかなく，オガサワラグワからは初めての記録となる。
2. オガサワラグワのオガサワラフトスジエダシヤク (シヤクガ科) : 2015 年 2 月に葉に発生した (図 2)。本種は小笠原諸島固有種であり，アサ科のウラジロエノキから記録されているほか，クスノキ科のテリハコブガシ・キンショクダモ・ムニンシロダモ，センダン科のセンダンでの飼育記録があるが，クワ科の本種からは初めての記録となる。
3. ヒメツバキ (ツバキ科，固有種) のコマエモンハイキバガ (キバガ科) : 2015 年 4～8 月頃にかけて複数回新梢部に発生した (図 3)。本種は南西諸島やタイから記録されており，南西諸島ではヒメツバキに近縁なイジュから記録されているが，小笠原諸島からの記録は初めてである。
4. モモタマナ (シクンシ科，広域分布種) のトガリサザナミシロアオシヤク (シヤクガ科) : 2013 年 9 月に葉に発生した。本種は国外ではカロリン群島に分布し，ムクロジ科のレイシやツバキ科のヒメツバキ (小笠原諸島固有種) から記録されているが，モモタマナからは初めての記録となる。
5. まとめ : 小笠原諸島固有種ならびに広域分布種に発生した蛾類の一部が明らかとなった。いずれの樹種でも初めての記録である。これらのうち，コマエモンハイキバガは小笠原諸島初記録である。また，オガサワラフトスジエダシヤクは固有種である。防除は一部の種については樹木類のシヤクトリムシ類・エダシヤク類の登録薬剤で対処が可能である。

(蛾類通信 (274) : 612-616, 631-632 (2015) [日本蛾類学会])

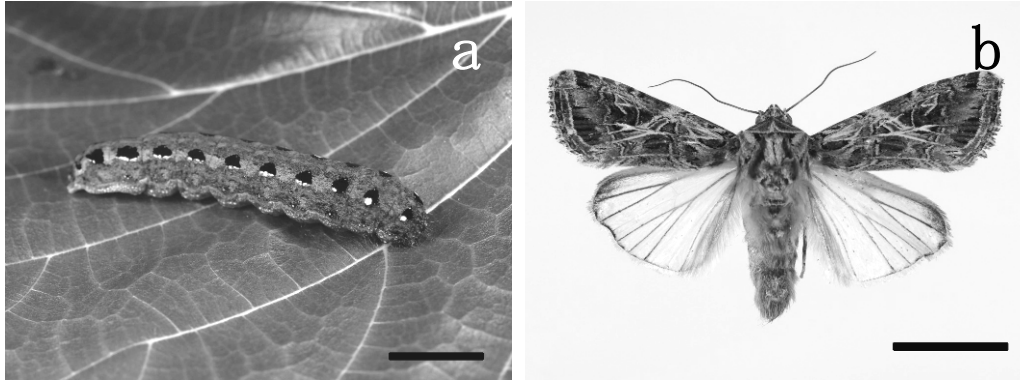


図1 オガサワラグワに発生したハスモンヨトウ (2015年1月)
 a : 幼虫 (スケールは10 mm), b : 成虫 (スケールは10 mm)。

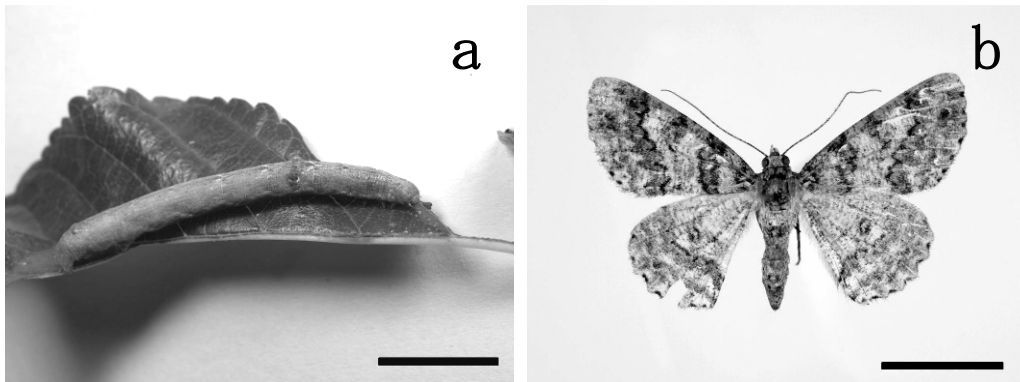


図2 オガサワラグワに発生したオガサワラフトスジエダシャク (2015年2月)
 a : 幼虫 (スケールは10 mm), b : 成虫 (スケールは10 mm)。

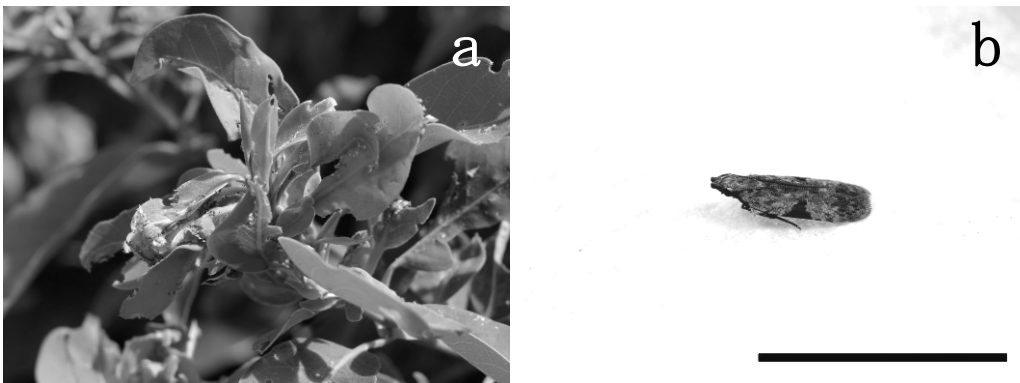


図3 ヒメツバキに発生したコマエモンハイキバガ (2015年6月)
 a : 幼虫による新梢部の被害, b : 成虫 (スケールは10 mm)。

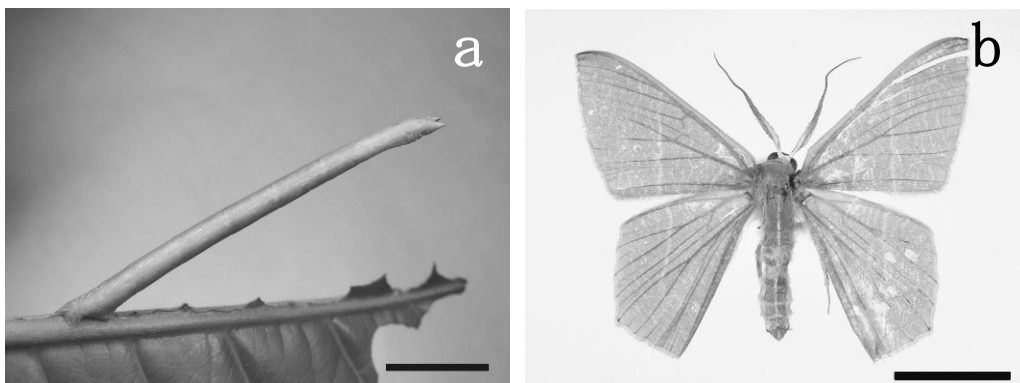


図4 モモタマナに発生したトガリサザナミシロアオシャク (2013年9月)
 a : 幼虫 (スケールは10 mm), b : 成虫 (スケールは10 mm)。